

川辺高校同窓会報

母校川辺は永遠に



同窓会長
前野 政 美

各地区同窓会はもとより川辺の本部同窓会会員の皆様には御健勝のこととお喜び申し上げます。常々同窓会の運営には格別なる御支援と御協力を賜りまして誠にありがとうございます。周年行事も近づいて参りました。会員の皆様のさらなる御指導と御協力を宜しくお願い申し上げます。

我々は青春の一時期を南薩の空の下で過ごしました。戻れるものならもう一度あの時代に帰り、再度人生を繰り返してみたいと思うのは私だけでしょうか。母校という絆で結ばれた我々は、青春のあの時期を時空を越えて共有し、共有しているものを仲介として成り立っているのが同窓会であります。先輩・後輩の繋がりを確認したり、青春の思い出を語り合ったり、話せば意外と身近な人であったりと、色々と繋がりが出来るのも同窓会にあります。各地区同窓会へ是非、一人でも二人でも声を掛け合って参加してみて下さい。

現在、本部が抱えている問題は、生徒数減による母校の存続であります。母校の募集定員は一学年五学級で、本来なら六〇〇名いなければなりません。現状は三年生五学級一九九名、二年生四学級一五三名、一年生五学級一六四名で、合計五一六名であります。六月の南日本新聞記事や七月のNHKテレビ放送でも放映されましたが、川辺高校同窓会支援通学バスのお陰で今年の一年生はなんとか五学級での存続ができました。現在では、鹿児島県の地方校の通学モデルの一つに取り上げられるようになりました。また、川辺高校同窓会支援通学バスにつきまして

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
鹿児島県川辺郡川辺町田部田
TEL 0993-56-1151
FAX 0993-56-1152
県立川辺高等学校

は、川辺町当局、川辺町商工会及び川辺町観光協会からも援助をいただきました。改めまして御礼申し上げます。神戈陵奨学金や同窓会育英奨学金ともども母校活性化のために、今後とも会員の皆様との御協力や御支援を宜しくお願い致します。

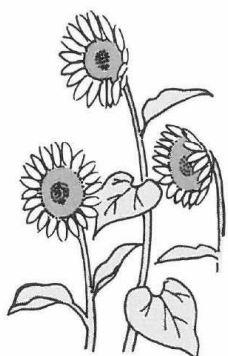
今年の四月、四年間母校の活性化に活躍していただいた西元辰宏校長先生が御退職され、新しく母校出身の田中義博校長先生が着任されました。現在、管理職二名とも母校出身というのは、県内では珍しいことであります。また、四十四名の職員中七名の母校出身者がいることは、同窓会運営に関しまして心強いことでもあります。

私たち同窓会の思いは母校の限らない発展と、同窓生の強い連携、さらなる母校の活性化であります。かつて県下で文化・学業の中心であった旧制

四中を蘇らそうと学校も同窓会も一生懸命努力中であります。

二十一世紀に母校が生き抜くためには、個々に応じた教育、生徒の得意・長所を伸ばす教育、開かれた魅力ある学校、特徴ある地域に密着した学校をいかに築けるかということでもあります。校訓「自律・端正・積極・公德」の下、高い目標への挑戦心、目標達成のために「初心」を忘れることなく、食らいついたら最後までではなさない意志の強さをもった生徒たちに育って欲しいものであります。

最後に、同窓生の皆様の御健康と御発展をお祈り申し上げます。



歴史と伝統ある 母校の活性化



校長
田 中 義 博

私はこの春の定期人事異動で、西元辰宏前校長先生の後任として着任いたしました。本校の第十九回(昭和四十二年卒)の卒業生であります。歴史と伝統ある母校で奉職できることに大きな喜びと責任の重さを痛感いたしております。四月六日、始業式・入学式(百六十四名の新入生入学)を保護者、来賓各位及び先輩同窓生の方々のご臨席を賜り、五百十六名で新学期を無事にスタートできました。昨年度新入生は、長い本校歴史の中で定員割れによる百五十四名の入学で、一学級減の四学

級で寂しい思いをいたしております。今年度は、同窓会の御支援・御尽力並びに町・商工会等の御協力、地域の保護者の深い御理解もあり五学級を維持することができました。心から感謝申し上げます。

また、同窓会の皆様方には、記念事業・式典等にもとより、神戈陵教育振興会をはじめ、常日頃から本校の教育振興に多大な御支援・御協力を賜り、深甚なる敬意を表しますとともに、心から深く感謝申し上げます。今後とも、皆様方の変わらぬ御支援御協力を賜りますようお願い致しますとともに、川辺高校同窓会の皆様方のますますの御健勝と御活躍を心から祈り申し上げます。

【学校の現状】

本校の目指すべき姿は、

「進路目標の達成を通して望ましい自己実現を果たす学校」であり、生徒・職員一丸となって頑張っております。

早朝七時四十分からの朝課外、師弟同行の朝読書、授業での小テスト、放課後の個人指導、文武両道を目指す熱心な部活動指導。三年生全員は私語厳禁の夕方六時までの一斉放課後自習。鹿児島中央高校での一日体験学習。各月の第一・第三・第五土曜日を「土曜日活用」とし、授業延長の「演習」。長期休業中の課外授業実施。今年度は八月末日の二日間(三十日、三十一日)を授業日とし、授業時数の確保・確認テスト等を実施します。暑期中ですが、生徒・職員一生懸命頑張っています。涼しい学習環境があれば、などと思うのは贅沢でしょうか？。

(一) 進路状況

十八年度卒業生は、国立大学の筑波大学、広島

大学、熊本大学、鹿児島大学など十三大学に二十八人、公立大学の都留文科大学、広島県立大学など八大学に十一人、合計三十九人。過年度卒業生が鹿児島大学、大阪市立大学などに合計四人合格しました。その他、職業能力開発大学校や公立短期大学、私立大学・短期大学、専門学校と多岐にわたっています。一方で、国公立大学に合格しても、大学に入学せずに専門学校等へ入学する者も数名います。

(二) 部活動

全体の約七十五%が部活動をして、正に「文武両道」を目指して日々頑張っています。

今年度のこれまでの戦績は、薙刀部が九州大会・全国大会出場。十二年連続県大会金賞受賞の音楽部は、出雲市で開催される全国高等学校文化祭鹿児島県代表として出場。過去山形大会にも出場し今回二回目、活躍が大きい。

に期待されます。

(三) 学校行事

今年度の学校創立記念日(四月二十六日・木)には、第二回卒業生(昭和二十五年卒)の前橋松造氏が「歴史を掘る」と題して講演して頂きました。南日本新聞社の取締役・広報局長など、豊かな経験を通してのご講演であり、その中で、「企画力」「体力」「気力」「知力」「取材力」「想像力(感性)」「構成力」「訴求力」の八力の大切さを学ぶ機会を得たことは、二十一世紀を担う後輩たちへの大きな指針となるものでした。

五月二十七日(日)、第三十回音楽部吹奏楽団定期演奏会。元・東京フイルハーモニーマニアゴット首席奏者・井料和彦氏(昭和三十年卒)の御指導・指揮のもと、町文化会館で記念定期演奏会が立ち見一杯の中で開催されました。卒業生を交えての「ハレルヤ」も素晴

らしいででした。

文化祭は、台風四号間近の七月十三日(金)実施。町文化会館での舞台発表、書道部、美術部等の力作展示。PTAの協力等により無事終了。体育祭は九月八日(土)に実施予定です。同窓会の皆様方の多くのご参加をお待ちしております。

更に、第八回神戈陵塾を「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」に併せて、十一月二日(金)に実施致します。保護者、同窓生はもとより地域の皆様にも気兼ねなくご参加いただく塾を実施したいと計画しています。

【終わりに】

川辺高校の座右の銘「弘毅正大の心、競進優越を期す。不断刺激を新たにし、忠実奮って自学せん。」の神戈陵魂を抛り所として、さらなる学校の活性化と飛躍を図って、生徒の学力向上と「できる人以上にできた人」の育成に努めてまいります。今

後とも、母校川辺高校と後輩たちへの限らない御指導御声援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓会の母校愛

脈々と！



教頭 宮 園 秀 昭
(第23回卒)

同窓会員の皆様方におかれましては、益々御健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。また、日ごろより同窓会には物心両面から母校活性化のために御尽力・御支援・御協力を賜り感謝申し上げます。

早いもので、母校勤務二年目の夏を迎えました。母校は百八年目の歴史を刻み続けています。昨年は二つの還暦同窓会(高十六回卒、高十七回卒)が川辺町で開催され、また、

最後に、川辺高校同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍・御多幸を御祈念申し上げます。

昭和二十八年卒同窓会が薩摩川内市祁答院町で開催されたのを機に、計三回先輩方が母校を訪ねてくださいました。今年も昭和二十五年卒喜寿同窓会の集いで先輩方が母校を訪問されることで、楽しみにしております。機会あるごとに先輩方が母校を訪問してくださることは、生徒の励みになりありがたいことです。心よりお待ち申し上げます。さて、昨年は路線バス廃止問題で青戸・穎娃別府、知覧南部の本校希望者の通学手段が奪われるという大きな壁が立ちました。しかし、川辺高校で学びたい生徒のために同窓会が通学バ

スを走らせることを決定するなど、同窓会の母校に対する熱い思いに頭が下がりました。縁あって陵寿会や還暦同窓会で先輩方と語らう機会を得ましたが、同郷のことや古き良き時代のことが回想され話が弾む中で、母校の発展を願う後輩の活躍を期待する思いが一つであつたことを思うとき、このことはよりいっそう深いものとなりました。

今、生徒たちは純朴さを保ちつつ先輩方の期待に添うよう勉学に部活動にと励んでいます。何かの会合につけて、「川辺高校生はよく挨拶しますね、

服装がしっかりしていますね」と言われると、どこかすぐつたい感じがしますが、先輩方の築かれた古き良き伝統を脈々と引き継いでいると思います。今の時代だからこそ、古きよきものを大切にいつまでも守りつづけることができるよう生徒たちを励まし、母校発展のために、微力ではありますが努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、母校同窓会の益々の御発展と同窓会員の皆様の御健勝と御活躍を御祈念申し上げます。

川辺同窓会

柞木 浩幸

(昭和59年卒)

母校を卒業して、二十数年になるが、今回母校同窓会の開催に伴い代表幹事を務めることになり、五月中旬から川辺町内在住の同窓生、また近隣(知

覧町・南さつま市等)の同窓生等の協力を得て、実行委員会を立ち上げ、各役割分担等の準備を行い当日を迎えることができました。



より多くの卒業生にご
参集頂きたいという実行
委員の願いが通じたのか、
当日は百四十名を超える
参加者があり、楽しく歓
談している様子などを拝
見しますと幹事として、
嬉しくまた、少しほっと
したのも事実でした。こ
れも、同窓会事務局の先
生方、各同窓会支部役員
の皆様の御尽力の結果で
あり、母校への愛着の賜
ではと私自身感じたところ
です。

これまで、同じ町内の

川辺町役場に勤務してい
ながら、同窓会行事また
高校の諸行事等に触れる
機会が少なく、今回の幹
事役で母校に僅かながら
恩返しができたのではと
感じております。

私が高校在籍時のこと
を振り返ると、先生方は
個性派(熱血漢)が多く、
生徒は純朴で、いつも楽
しく学校生活を送ってい
ました。野球部に在籍し
ていたので、良き先輩・
後輩と厳しい中にも楽し
く練習や試合を行えたこ
とが二十数年を経過した
今でもたまに思い出すこ
とがあります。このよう
な良き思い出は自分の心
の糧また、財産としてこ
れからも大切にしていき
たいものです。

母校はいつまでもかけ
がえのない懐かしい場所
であります。

川辺高校の躍進、同窓会
の更なる発展を願います。



福岡同窓会

丸野 一誠

(昭和55年卒)

平成十八年度福岡同窓
会は、十月二十一日福岡
市中央区天神の福岡国際
ホール十六階の会場に於
いて、今年も盛大に行わ
れました。

但し、今年は例年と比
べ、会場の雰囲気がかな
り違っていました。会場
のドアを開け、私の目に
飛び込んできたのは、出
席者の半数を占める程の
若者の姿。大半が卒業後
間もない学生ですが、会
場には、「おんじょ」達
の加齢臭を吹き飛ばす、
ジャスミン?の香りが漂
っていました。

ここ数年は関係各位の
御尽力により、学生の参
加が年々増え続け、今年
の活気溢れる同窓会とな
りましたことに、厚く御
礼申し上げますと共に、
ぜひ来年以降も数多くの
リピーターを願ってやみ
ません。

さて、同窓会は前野本
部同窓会会長、西元校長
先生を始めとする数多く
の来賓の方々の御出席を
賜り、本田正朗氏の司会
進行のもと、例年通りに
ぎやかにとり行われまし
た。なかでも南谷会長の
挨拶のパワーは若者達の
度肝をぬく迫力で会を盛
り上げていただきました。
また、今年は吹奏楽部
のOGの「よかおごじょ」
お二人によるピアノとサ
ックスの演奏も披露され
しばし、心は思春期にタ
イムスリップしたのであ
りました。

旧校歌を幾度も声高ら
かに、感無量で歌い、炭
坑節、おはら節を踊りま
くり、今年はハワイアン
の講習もありとバラエテ
イにとんだ余興の数々、
応援歌を叫び、若者の自
己紹介にやじを飛ばしつ
つ、最後の万歳三唱まで

活気に溢れた楽しい時間
を過ごしました。

家庭、地域、そして学
校の崩壊などつながら
が薄れてゆく世の中で、
「ないごつよ、元気がね
ど、気張らんか」と叱咤
激励してくれる福岡同窓
会の伝統は永遠にと願
いつつ、母校の益々の発展
を祈念致しまして報告と
させていただきます。



関西同窓会

中 蘭 幸男

(昭和50年卒)



二〇〇六年度 川辺高校関西同窓会は九月十七日(日)に地下鉄御堂筋線の心斎橋駅近くのハートンホテルにて五十二名の参加を得て盛大に開催されました。例年、同窓

会本部、学校関係者、恩師をお招きして開催されていますが、今回は長崎に上陸しました台風十三号が鹿児島へ接近していたため、同窓会当日朝、来賓の方々の鹿児島出発

を断念せざるを得ない状況となりました。

西元辰宏校長先生、前野政美同窓会会長、長野守雄先生(昭和四十二年卒)、恩師の柿本和義先生(昭和四十六年度から五十一年度まで国語担当で在籍)にお会いしたい思いで参加された卒業生の方は大変残念なようでした。

今回は、長野先生のご協力を得て、関西在住の七名の学生さんが参加く

ださいました。学生さんの自己紹介(出身地、将来への進路希望)に対して、先輩諸氏からの質問などで同窓会は大変盛り上がりしました。学生さん方のお話では、先輩方との距離を短く感じたとの事、収穫ある同窓会になりました。三十八年卒の松村正幸さんは東京からの参加で、来年は鹿児島へ帰るため是非関西同窓会の同級生にお会いしたいとのことに参加されました。その他、初参加の福元六夫さん(四十三年卒)、前田孝三さん(四十四年卒)、富永博さん(四十五年卒)、菊永富幸さん(四十九年卒)にも自己紹介して頂きました。宴たけなわのなか、集合写真撮影後、原口広さん(五十年卒)の応援団掛け声によって全員で旧校歌および新校歌を斉唱しました。

二次会は同じハートンホテルの別会場にて開催され、約二十名の参加の

もと、カラオケにて自慢の喉を披露して戴きました。今回お越し戴けなかった柿本先生からは、大変楽しみにしていた会に参加できず、来年は是非、関西同窓会のメンバーの方々にお会いしたいとお便りを後日頂戴致しました。

今回の同窓会では、十月一日から三日まで伊丹スポーツセンターで開催された兵庫しのぎく国体へ川辺高校なぎなた部が参加されるとのことです。

多大の寄付も戴きました。十月一日、同窓会の有志が応援に駆けつけ寄付金の一部を寸志としてお渡ししました。寄付金を戴きました方々にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、今後とも同窓会本部、母校の先生方の関西同窓会に対するご指導、ご支援をお願いしますとともに母校の益々の発展をお祈り申し上げます。

宮崎同窓会

川原 一則

(昭和42年卒)

平成十八年度川辺高校同窓会宮崎支部総会は、例年通り正月の第四日曜日、一月二十八日に都城グリーンホテルで行われました。本年は三年に一回の都城市の開催になったわけです。小生も遠方の勤務のため長いことご無沙汰していましたが、

久しぶりに参加しました。懐かしい顔ぶれに心とむことでした。

ご来賓として母校と同窓会から、西元校長ご夫婦、前野会長、長野事務局長がご出席くださいました。校長先生の奥様は、「どうしても飲みたい」という男性陣の希望によ

り運転手役を引き受けられたそうです。その他に、昨年から出席しているようですが、学生のみなさんも参加し、将来の希望等を話してくれ場を盛り上げてくれました。

大坪会長さんは挨拶で、鳥インフルエンザの発生、そのまんま東氏(東国原英夫)の知事当選問題に触れて感想を述べられました。お互いに、宮崎県人としては新知事への期待と不安感で複雑な心境でした。

西元校長先生からは川辺高校の現状や生徒の活躍の様子、全国的にも深刻な生徒数の減少に伴う学級減、県教委の高校再編整備計画についての対応や奮闘ぶりなどを話していただきました。前野会長さんからは、市町村合併の件や将来の展望などお話をいただき、故郷について新たに考え直すことでした。

県立川辺高校同窓会宮崎県支部総会



本部からは、焼酎「八幡」と「寿」の差し入れがあり、久しぶりに故郷の味を堪能しました。ありがとうございました。

宮崎同窓会に際しましてご尽力いただきました大坪会長さん、黒木幹事長さん、泊幹事さん、来賓の皆様、本当にありがとうございました。また、参加してくださいました学生のみなさん、宮崎支部会員の皆様ありがとうございました。

知覧町役場神戈陵会

前田 伸也 (平成3年卒)

平成十九年六月二十一日、知覧町「やなせ」にて、森田同窓会副会長を始め田中校長先生、宮園教頭先生、長野先生、松久保知覧地区同窓会長の出席をいただき、総勢五十二名で知覧町役場神戈陵会を開催いたしました。

知覧町役場神戈陵会は、毎年一回開催され、会員は昭和三十四年卒から平成十二年卒までの六十七名で構成されており、知覧町役場の職員の約三分の一となっております。

今回も含めて、知覧町役場として、毎年神戈陵会を開催しております。また、知覧地区全体の同窓会を開催したことがなく、今回、松久保知覧地区同窓会長に出席していただき、



知覧地区同窓会開催の実現についてのお話がありました。毎年八月に、全体同窓会が開催され、また、県外各地でも同窓会が開催されています。川辺高校の隣町で卒業生が多い知覧地区も地区全体の同窓会を開催すべきではないかと思えます。

話は変わりますが、現在、知覧町は、川辺町・頰娃町との年内合併に向

け、動いています。知覧町役場神戈陵会の存続については、まだ答えが出ておらず、合併までの課題となっております。この件については、今回の幹事に一任しました。今後、知覧町役場神戈陵会という同窓会組織がどう

いう形になるかわかりませんが、今後も川辺高校卒業生として、神戈陵会を引き継いでいくため、私たちにできることは、何でもやっていききたいと思っています。

最後に、当日お見えになられた先生方には、こちらの予想を超える参加者数だったため、窮屈な思いをさせてしまったことをお詫びいたします。また、平成十八年度幹事として、知覧町役場神戈陵会を開催できたことと、多くの方々に参加していただいたことに深く感謝いたします。

平成十八年度幹事

(前田・小宮・中渡瀬)

第27回 川辺町役場神戈陵会

会長 桑水流 清美 (昭和48年卒)

平成十九年度川辺町役場職員神戈陵会総会並びに懇親会が、六月九日、「ふく美」において盛大に開催されました。

川辺町役場職員神戈陵会は、母校の発展に寄与することを目的として設立されてから今年で二十七年目を迎えました。

総会では、始めに有水秀男会長が、「川辺町が十二月には知覧町や額娃町と合併し、南九州市に生まれ変わること、この神戈陵会も知覧町役場神戈陵会等との統合を進めていく必要があります。」とあいさつ。平成十八年度の事業経過報告・収支決算の報告の後、平成十九年度の事業計画や収支予算、役員選任等が審議・決定されました。事業計画の主なものは、母校及び母校の行事に対する援助のほか、毎年夏に開か

れる母校同窓会運営への協力等です。今年は、特に母校音楽部が全国大会という輝かしい舞台への出場が決まっていますので役場職員神戈陵会もできるだけの支援をして参りたいと考えております。

さて、皆さんご承知のとおり、今年の十二月一日の三町合併に向けて着々と準備が進められているところです。三町合併後は、川辺町役場職員神戈陵会と知覧町役場神戈陵会及び額娃町の同組織との統合が必要になってきます。そこで、まずは知覧町役場神戈陵会との統合に向け、お互いの意思疎通と親睦を深めるため交流会を秋に開催する予定です。

会員数は、川辺町役場職員神戈陵会が、今年五月現在で百五名であり、もしこれに知覧町役場及

び額娃町役場の母校出身者を加え、一つの組織にまとまりますと、母校の支援にも大いに力を発揮するものと思います。

懇親会は、顧問の鶴田康夫副町長の乾杯の音頭でにぎやかにスタート。会場には、田中学校長先生、宮園教頭先生、長野先生、水溜先生、蔵前先生のほか森田剛同窓会副会長にも出席いただき、そのうち田中学校長先生及び森田同窓会副会長からあいさつをいただきました。

母校の現況や近年の入学者数、進路状況などのほか、川辺町の合併など母校を取り巻く話題等で盛り上がり、時の経つのも忘れ、あつという間に閉会の時間を迎えました。長野先生からは「川辺高校の昨年の一年生は四学級編成となりましたが、今年は定員減ながら何とか五学級編成できました。本校の限らない存続のためには、生徒数の確保が第一であり、この川辺町役場

神戈陵会会員の皆さんにも生徒募集に積極的に協力していただきたい。」との熱い訴えがありました。最後に、母校の限りない発展を願い、母校生徒

南さつま地区神戈陵会

木場 正英 (昭和48年卒)

私共、南さつま地区神戈陵会は昨年七月に設立され、平成十九年が第二回の開催となりました。

七月の第一土曜日を開催日として、本年は七月七日(土)に昭和三十九年卒業の今村勝徳氏の経営する南さつま市のレストランブルドッグにおいて開催致しました。

当日は、本部同窓会より前野会長・高田副会長、学校側より田中学校長先生・宮園教頭先生・長野先生のご出席と、保護者二名、会員三十二名の計三十九名でした。二月の役員会において、とにかく参加人数が多いほど盛

の活動を支援していくことを誓いあい、そして肩を組み声高らかに校歌を歌い、会員の団結と融和を図り、会を閉じました。

り上がるのではないかと、この意見をもとに保護者にも参加を働きかけようと、三十数名の保護者に



案内状を送付しましたが、多数の参加には至りませんでした。しかし、南さつま地区神戈陵会の存在を知って頂く機会ではありました。

参加会員においては、

昭和十七年卒業生より平成十一年卒業生までの幅広い年代の参加のもと、一人ずつ自己紹介と在学中の思い出を披露し、大変盛り上がりしました。

なかでも、昭和十七年

旧制中学校卒業の高木一夫・二宮郁夫・春成文夫・西秀美四名の元気はつらつな大先輩の元気な声と酒を酌み交わす姿に、圧

倒されました。

このように、初めて出会った年代の違う先輩・後輩が瞬時にうち解けられるのも、母校に対する恩愛の絆のお陰と改めて感じました。

現在、我が南さつま地区からの通学生は全校生徒の三割強まで増加しており、後世に引き継ぐためにも、組織の強化をはかっていかなければなりません。

今後も、母校の発展を祈りながら、上東書三會長を中心に役員一丸となつて、組織の充実に向けて努力いたします。

東京同窓会

峯元 政公

(昭和46年卒)

一、第三十一回総会・懇親会(定期演奏会の同時放映)

平成十九年六月十六日土曜日に「九段会館」において、来賓の前野政美本部同窓会会長、田中義

博校長、森田剛本部同窓会副会長、長野守雄教諭、蔵前勇教諭、恩師の内野速雄先生、柿本和義先生並びに薩南工業高等学校同窓会関東支部、関東さつま川辺会、関東知覧会、

(株) 盈進社、奄美旅行センターの代表の方々の出席を得て総数二百十三名の出席者により盛大に開催することができました。

会の企画・進行役は毎年当番制により行っており、今年は三十九年卒・四十九年卒の方々でした。講演総会司会は木村公紀氏(三十九年卒)、懇親会司会は有馬正史氏(四十九年卒)が担当され会がスムーズに運営されました。

恒例の特別講演は三十七年卒の蔵前祥子さんが「高齢化社会をいきいき生きる」という演題で行い、老後を明るく楽しく過ごす秘訣を教えてもらいました。

懇親会の新卒紹介では、平成十八年卒五名・十九年卒五名・平成十五年度に母校で学んだ留学生(パナマ人・現在外語大生)の十一名に一言ずつ「遠く故郷を離れています」等が頑張っています」等の力強い近況報告をいた

だき、ほとんどの出席者が高校を卒業して上京した懐かしい頃を思いだしたのではないかと思います。

校歌合唱の後、飛び入りで二宮勇貴君(平成十八年卒)、日置友幸君(平成十九年卒)のエールが披露され、また、若い人に負けじと二十七年卒一同(十三名)による応援歌「神戈陵頭秋酣けて」の

大合唱があり、今日の出席者で最長老の遠矢典夫氏(十六年卒)の万歳三唱で幕を閉じました。

なお、懇親会中平成十九年六月に行われた母校吹奏楽部による定期演奏会の様子が大型スクリーンに再生され、見事な演奏に出席者

一同見入っていました。
二、会報誌「神戈陵三十号」の発行
平成十八年十月に発行し、母校及び全国の同窓会にも送付しました。
三、神戈陵 三十周年記念誌の発行
会報誌神戈陵二十一号(三十号を綴った記念誌を平成十九年六月に発行し、母校及び全国の同窓



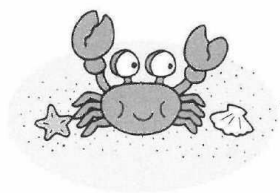


会にも送付しました。
四、評議員会の年二回開催

(一) 平成十八年十月に四十四名の評議員の出席による評議員会の開催と会報誌「神戈陵三十号」及び年会費(千円)の振込用紙の発送作業を行いました。

総会案内状の発送作業を行いました。
五、秋のレクレーション開催
平成十八年十一月に上野動物園見学を会員及びその家族の参加を得て開催しました。東京ボランティアーズの会員である本田会長に動物の解説をいただきました。
六、母校の卒業生に卒業記念としてボールペンを贈呈

七、薩南工業高等学校同窓会
関東支部・吹上高等学校
関東地区同窓会・関東さつま川辺会・関東知覧会の総会出席。



東海同窓会

幹事長 佐多 和夫
(昭和39年卒)

第十八回東海同窓会は、二年ぶりに恒例の賀城園にて平成十八年十月一日(日)に開催しました。

今回は、母校からは西元辰宏校長・長野守雄先生並びに同窓会本部会長の前野政美様のご臨席を賜りました。

東海同窓会は発足して二十年になりましたが、当時四十才代は六十才代に、五十才代は七十才代と高齢になり、病気等で亡くなられたり、入院等で参加が少なくなってきたのが現状です。このような中、西元辰宏校長・長野守雄先生の采配により、中部地方の大学に入学された平成十七年卒の江並君・大渡さん・福元さん・西君そして平成十八年卒の林さんの五名の大学生参加があり、計二十三名の会でした。

また今年は、先生方も

学生さんも二次会にも参加された楽しい会となりました。

東海同窓会は今回を含めて隔年開催となりました。そして再度、幹事長役をすることになりましたが、今後ともご指導・ご支援をお願い致します。母校の益々の発展をお祈り申し上げます。

枕崎・坊津地区神戈陵会設立

枕崎・坊津地区PTA 林 吾郎

平成十九年五月十九日、ホテル海南荘にて、枕崎・坊津地区神戈陵会が約十五年ぶりに再構築されました。以前は中学校卒業生を中心とした同窓会だったらしいが、新制高校になってから、地元の高校に進学する様になり、川辺高校へ同地区からの進学者がほとんどいない状況が三・四十年続いていたので、我々保護者で神戈陵卒業生はほとんどいない状況である。

しかし、昨年の枕崎・川辺高校路線バス(スクールバス運行)廃止問題を、地区PTAと高校が一致団結して取組み、また各地区PTAの協力も頂き、約四千件にものぼ



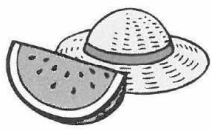
坊津地区神戈陵会設立総



る嘆願書を行政と鹿児島交通株式会社側に提出し何とか存続が決まった時は、川辺町本部を中心とした神戈陵生の頼もしさ、まとまりの良さを改めて認識することであった。

同地区では、百名あまりの生徒全員がスクールバスを利用しており川辺高校の校風や教育活動が高まる傾向にある中、我々枕崎・坊津地区PTAは、川辺高校への進学希望者

晴れて我々PTA会員も準会員として同窓会に名前を連ねる事ができました。子供たちを中心とした子供たちの為の同窓会員ではあるが、幹事の一人として、PTA同様、同窓会も楽しみたいと思います。よろしくお願い致します。



の安全・安心な通学手段確保を守るため、是非とも同地区神戈陵同窓会の再構築が必要と判断し、地元の同窓生に働きかけ、実行委員を中心に準備を進めて参り何とか今日の設立総会にこぎつける事ができました。会則承認により、

陵 寿 会

世話人 大倉野 貞俊
(昭和25年卒)

今年の陵寿会は三月十日、例年通り三州倶楽部で第二十九回総会を開催しました。郷里からは来賓として本部同窓会の前野政美会長(昭和三十年卒)、母校の宮園秀昭教頭(昭和四十六年卒)・長野守雄先生(昭和四十二年卒)をお迎えしました。

今年も一昨年から始まった田口精一会員提案の「語ろう会」を午前十時から開催しました。参加者は来賓を交えて、二十人が「故郷活性化と母校の将来を考える」というテーマで白熱議論を交わしました。過疎化の為、鹿児島交通が知覧・頤娃方面のバスを廃線にしたが、本部同窓会の補助金によるバスを走らせ、何とか生徒の足を確保した。

また、少子化のため南薩地区の高校は軒並みに生徒数が減り、本年度も

昨年同様、母校の応募者が定員に達しませんでした。先生方は「レベルアップこそ生き残る道だ」と頑張っているという話。何か特色を持つべきではないか。例えば、「同窓会が現在行っている奨学金制度を更に充実させ、南薩地区全体から人材を集めることを考えるとか」。

「昨年も議論になった中高一貫校については『学区制』の障害があるというが、それを何とか打破出来ないか」。「川辺の町民も危機感を持って、企業誘致などの町の活性化を図る努力をすべきではないか」など。それぞれに時間一杯、貴重な意見を述べて語り合いました。



に移りました。本田雄郎東京同窓会長の挨拶に続き、宮園教頭が母校の入試合格状況や部活など活気ある現状と将来への展望を述べました。前野会長からは母校との協力体制の強化について先輩諸氏のお力をお願いしたいこと。十二月に三町が合併して発足する新市の名称が「南九州市」になること。頤娃町がこの新市に加わることは母校の将

来にとっても明るい希望が持てることなどを話されました。

ここで、大先輩の川野重任先生(文化功労者・東大名誉教授)がお立ちになり、「只今お聞きして、母校川辺高校の将来には正に暗然たる思いである。我々は大志を抱き、笈を負って郷関を出た身であるが、果たして郷里のため何に報いたのだろうか。私は、かつては鹿児島の特産であったポントタンが今では「土佐文旦」と言う名産物になつていて聞き、その苗木を高知から取り寄せ、出身母校の小学一年生に寄贈している。今では立派に実をつけるようになったと聞いている。午前中の『語ろう会』でも母校や川辺の活性化について活発な議論が出たと聞いている。皆さんも何か一つでも故郷に恩返しをして『鹿児島よ頑張れ』とエールを送って貰いたい。」と話を締めくくりました。

次いで懇親宴に移り、長野教諭の発声で乾杯。

全員が満面に笑みを浮かべ、歓声を上げながら一年ぶりの再会を喜びました。会場には「つけあげ」や川辺から取り寄せた「牛刺し・鳥刺し」も山盛りで、舌鼓を打ちながら故郷の味を噛み締めました。宴たけなわの中、恒例の「関東さつま南の会」の連中による「おはら節・はんや節」などが飛び込んできました。多数の会員も輪に入って踊りました。次いで、全員の集合写真や卒業年次別の写真を撮り、最後に校歌斉唱で散会しました。

【註】 陵寿会は東京同窓会で六十歳以上の人達の集まりです。毎年三月に目黒の三州倶楽部で交歓会を開いています。来年はより多くのご参加をお願いします。



川辺高校昭和四十年卒業 還暦同窓会

松元 ツル子(昭和40年卒)

朝晩いくらか初秋の気配が漂って参りましたが、その後皆様いかがお過ごしですか。ここに鹿児島県立川辺高校昭和四十年卒業還暦同窓会の報告を

致します。五月末に同窓会の開催に着手し、慌ただしい計画の日程で、しかもチケットの手に入りにくい時期でありましたにも関わらず七十二名という多くの方々



に、遠くは奥州仙台からも御参加頂き、八月十二日に開催できましたことを、実行委員一同心から嬉しく、有難く、心より感謝いたします。いろいろ不手際もあり、ご迷惑をかけた面も多々あったかと思いますが、この写真を見ますと、皆さん笑顔でいらつしやるのでつくづく良かったと思っております。不行き届きの面はどうぞご容赦下さい。この日程が不

都合で御参加頂けなかった皆様にも心より申し訳なく思います。

この度の同窓会が実現しますまでには、多くの方々のご尽力がありました。口火を切り実行委員長を引き受けて下さった松久保郁雄さん・副委員長を快諾し司会進行まで務めて下さった鶴田康夫さん・同じく副委員長として閉会の挨拶をして下さった有村智さん・副委員長、会計係として終始御苦労いただいた柳義充さん・実行委員会の会場を提供し、当日はスナック写真を撮って下さった丸野政哉さん・細やかな心配りであちこちの方々と連絡を取り和やかなムードで実現の労をとって下さった郡山健郎さん・同窓会を始めなければならぬとは思いますが、方々に暮らしていた松元の相談に乗り、当日の司会を引き受けて下さった樫根厚子さん・手を拱いていた松元を見かねて実施に

向けて突破口を開き、葉書の発送をして下さった森原イツ子さん、学年全体の同窓会にするための労を取り名簿を提供のうえ、三・四組の方々への葉書の発送、幹事の依頼、当日は乾杯の音頭を取って下さった江田さん御夫妻・三組の方々のとまりとめをして下さった辰野文子さん・大坪節子さん・四組の元締めになつて下さった田口松子さん・徳田久子さん・有蘭幸子さん・同窓会開催に力強い後押しをして下さった馬場正明さん・招待に快く応じて下さった皮籠石先生・山口先生・橋元先生・メッセーじを寄せて下さった川崎先生にも感謝の気持ちで一杯です。さらに川辺高校の西元校長先生・宮園教頭先生は来賓として快く御参加下さいました。長野守雄先生は同窓会係として資料の準備・葉作成の指導を、音楽部のみなさんは合宿の合間に校歌の演奏を、薙

刀部は薙刀舞を提供して下さいましたが、パイプ椅子の準備までして下さい感謝でした。種々の印刷等加勢いただいた福島先生など本当に多くの方々のお力があつての還暦同窓会でした。

恩師の温かくユーモラスなミニ講義、無事安全祈願、亡師亡友への黙禱、祝宴と続きましたが、何よりのご馳走は久しぶりに再会した旧友との語りであったのではないでしょう。顔を合わせると忽ち昔に帰って、四十二年の時間が無かつたかのよう。うな気持ちになつたのは不思議でした。これを機会に旧交を温めて、今後の人生の糧が増えることになりましたらこんなすばらしいことはないと思います。お互いまた新たな気持ちで元気に過ごすごに致しましょう。

今後とも、それぞれの地で御健勝にお過ごし下さい。

記念定期演奏会を終えて

音楽部部长 志風 早紀

今年は、第三十回ということもあり、皆、気合が入っており、どうしても成功させなければならぬと感じていた。第三十回記念定期演奏会を大成功に終わらせることができたのは、顧問の福森利孝先生をはじめ、井料和彦先生、菊野竜一郎先生、前野政美同窓会会長、南健蔵様をはじめとする東京同窓会の方々、現・音楽部吹奏楽団の保護者の方々など本当に多くの



方々が温かく支えてくださり、心から感謝の気持ちでいっぱいである。

そして、川辺高校の大先輩であられる井料先生を指揮者としてお招きし、一緒に音楽を創り上げていくことができたことは、とても貴重な経験であり多くのことを学ばせていただいた。「音楽」というものを改めて教えてくださって、私たちは気持ちも新たに演奏に取り組んだ。また、東京や鹿児島市からおいでいただいたコーラス部の先輩方が「ハレルヤ」に加わると、やはり「すごい！」と感嘆した。とても明るくハキハキとしていらつしやう、私たちの方が元気をいただいた。私は、「ハレルヤ」ではフルート演奏を担当していたが、一年生でコーラスを受け持った部員はOB・OGと

共に歌い、きつと多くのことを学んだと思う。歌いきつた感動がズシリと伝わってきた。

本番当日は、「実科女学校」「高等女学校」「旧制川辺中学校」「川辺高等学校」の代々の校歌で幕を開けた。歴史の重さを改めて感じた。第一ステージの最後、「ハレルヤ」は素晴らしい響きの中で先輩方と時空を越えた感動を味わい、夢のように感じた。

第二ステージの「ソロ・アンサンブルの楽しみ」では、ホルン独奏の伴奏として宮園智帆先生にピアノ出演していただき、音楽の深さを感じることができた。三年生だけの演奏では、今まで皆とこまで協力して、音楽を楽しむ創り上げてこれたことが頭の中をめぐり、目がうるんだ。そして、コンクールまでこのメンバーで頑張つていくのだと強く思った。

第三ステージは、「さあ、

あなたが主人公！」のテーマで、ポピュラー曲を演奏したが、音楽部を側面から支えていただいている菊野病院副院長である菊野竜一郎氏に昨年の「時代劇メドレー」に続き「情熱大陸」の指揮をしていただいた。

技術面ではまだ未熟なところが目立ったが、皆楽しんで演奏できた。観客の方々の温かい拍手がとてもうれしく、期待にこたえなければ、というよい緊張感も生まれた。

第四ステージ「栄光の瞬間を感じて」では、コンクール曲を演奏した。自由曲は真島俊夫氏の作



曲した「三つのジャポニスム」で、『鶴が舞う』『雪の川』『祭り』の三部で構成されており、音による情景描写の曲である。楽器の音色やリズム・メロディーの中に静と動を感じ、感性を研ぎ澄ませた演奏を心がけたが、反省点も多くあったので、これからコンクールに向けて課題を克服していききたい。

そして、アンコールで絶頂に盛り上がり、記念定期演奏会をやり遂げた感動に、一人ひとりの顔には笑顔が溢れていた。観客の中には立ち見の方も大勢いらつしゃって満席の九百人を越えていたと聞く。このように多くの方々が私たちの演奏のために足を運んでくださり、とても光栄である。

来場者をお見送りするとき、心の中はさすがらしく、充実感に満たされていた。

本当にありがとうございました。

鹿児島同窓会

木原 彬成
(昭和36年卒)

平成十九年度の鹿児島同窓会神戈陵のつどいが、七月二十八日(土)にジェイドガーデンパレスで百二十七名参加のもとに開催されました。来賓として川辺同窓会深町幸子副会長、母校から田中義博校長、宮園秀昭教頭、長野守雄・蔵前勇・水溜孝志先生、前川辺高校校長西元辰宏先生、吉留康貴ジェイドガーデンパレス社長のご参加をいただきました。



今年度は、昭和二十九年卒と昭和三十三年卒の皆様の方につどいの会の運営をしていただきました。総会の部の司会を三十九年卒の中迎勇策さんにお願ひし、開会のあいさつを二十九年卒の桐原祥二さんが、母校への思いは当時と変わらないと挨拶をしました。そして、亡師・亡友への黙祷を行いました。

池田鹿児島同窓会会長が、西郷隆盛の温泉好きの話が、心の中に抱き続けるものは何か、それは桜島であるという話をしたというエピソードを交え、われわれには共通して神戈陵という心の精神を持つている。これは、兄弟以上につながりがあるのではないかと挨拶されました。

祝辞として、深町幸子同窓会副会長よりご挨拶

をいただきました。次に、田中義博校長より、「最近では生徒数も減ってきているが一年生は五クラスを保っている。生徒たちは先輩に負けぬように頑張っている。できる子どもより、できた子どもを送り出したい。」と話をされました。また、前校長の西元辰宏先生より、和魂を大事にしている学校であったと思うと話をされました。

つどいの案内状と同時に鹿児島同窓会会報を送付して会務報告・決算報告と監査報告、松清幹事長の退任のあいさつ、新幹事長木原彬成、事務局長霜出佑二氏の新任のあいさつ、それに伴う平成十九年度の役員報告をし、来年度は昭和三十・四・五十年卒の方々に会の運営をお願いするとの確認をしました。

懇親会の部の司会を、二十九年卒の桑畑泰正さんにお願ひし、二十九年卒の野間健三さんの力強い乾杯の発声により懇親

会がはじまりました。祝儀の舞を、二十九年卒の藤井のり子さん、三十九年卒の五反田エイ子さんに華やかに舞っていただきました。

参加者の方々は、受付のあたりから懇親会の中でも、面々の神戈陵時代の思い出に話を弾ませ、旧交を深める姿は自分たちの高校時代に帰っていたようでした。

同級生、先輩、後輩と入れ混じって酒盃を酌み交わす姿は、川辺高校鹿児島同窓会一致団結の姿であると思い、うれしく思いました。恒例の三十五年卒柚木清紀さんの股旅者の出し物、そして、今年の県議員選挙で、初当選された、昭和五十四年卒の柳(四反田)誠子さんに挨拶をいただきました。高校時代のなぎなた部での思い出や、現在部員が少ないので、廃部になるのではとの心配もされていました。働く人を大切にすることをモット

ーに頑張っていきたいと話をされました。そして、今回主役の三十九年卒、三十九年卒の皆様方が、それぞれの趣向を取り入れた出し物を披露し、カラオケでも多くの方々が自慢ののどを披露してくださって、懇親会も最高に盛り上がりしました。

宴たけなわの中、旧制中学校校歌・新制高校校歌を、二十九年卒の川垂悦子さんのピアノ伴奏、二十九年卒黒松和子さん、三十九年卒六反田一利さんの指揮のもとに、全員で声高らかに斉唱の後、三十九年卒の山口和喜さんの音頭で万歳三唱を行い、三十九年卒の窪田マリ子さんの閉会のあいさつでもつて、神戈陵のつどい(懇親会)の幕を閉じました。盛会のうちに鹿児島同窓会神戈陵のつどい(懇親会)を終了できましたことを、感謝申し上げます。最後に、母校のますますのご発展を祈念いたします。

事務局より報告

事務局長 長野 守雄

一 平成十九年度「同窓会育英奨学生」決定の報告

平成十六年度から、地域のきわめて優れた資質を有する生徒の母校への入学が一段と促進されることを願い育英奨学金制度を発足し、月額一万円の育英奨学金を給付し、川辺高等学校の英才育成と人材確保に寄与している。

平成十九年度「同窓会育英奨学生」は左記の通り。

◇一年生

東 圭太 (川辺中出身)
東 祐大 (川辺中出身)

◇二年生

大藺 優 (川辺中出身)

岡元 絵理 (青戸中出身)

◇三年生

志風 早紀 (加世田中出身)
真茅 知美 (加世田中出身)

二 各地区・各年度同窓会の開催

恒例の各地区同窓会は昨年度も盛会の内に終了した。昨年の七月一五日(土)に南さつま地区神戈陵会が発足したのを受けて、今年の五月十九日(土)に枕崎・坊津

地区神戈陵会が発足した。昭和十八年卒の中山了氏が会長で、幹事長は昭和三十三年卒の戸床安孝氏が選出された。

各年度の同窓会も活発で、同窓会報や川辺高校概況報告等をお送りして援助した。昭和四十年卒の還暦同窓会のグループは昨年八月、川辺高校で恩師や在校生と交流した。また、今年の五月に行われた第三十回音楽部定期演奏会には、東京を含め各地よりOBやOGが集まり、昭和三十年卒の井料和彦氏とともに「ハレルヤ」の合唱をした。

三 援助

① 毎年東京同窓会より、卒業生全員へボールペンをいただいている。

② 三月の西元校長送別会に、東京同窓会より大塚和代様が代表で花束を持参してくれた。

③ 四月の入学式には本田雄郎東京同窓会長と南谷知成福岡同窓会長が参列してくれた。

④ なぎなた部は大阪でのインターハイや春の大会で、

関西同窓会に多額の援助金をお願いした。

⑤ 川辺町役場神戈陵会から今年も十五万円を援助していただいた。

⑥ 有藺サチ様より、昨年度と今年合わせて百万円を財団法人神戈陵奨学金の方へ寄付していただいた。

⑦ 前野政美同窓会長や菊野光郎前会長からは、各種に渡る多額の援助金や学校職員への物心両面に渡る援助を今年もいただいた。

⑧ 卒業式や前日の同窓会入会式に、各地区同窓会よりメッセージをいただいた。また、川辺の役員の皆様には御出席いただき、卒業生の門出を祝福していただいた。



川 辺 高 等 学 校 同 窓 会

平成18年度 収支決算書

収入の部

(H18.8.1~H19.7.31)

費 目	予算額	補正額	予算現額	収入済額	増 減	備 考
入 会 金	200,000		200,000	164,000	△36,000	1,000×164
会 費	378,000		378,000	372,000	6,000	2,000×186
総 会 費	400,000	108,000	508,000	508,000	0	参加費 503,000円 寄付 5,000円
繰 越 金	264,428		264,428	264,428	0	
繰 入 金	1,400,000		1,400,000	1,400,000	0	定期とりくずし、寄付
雑 収 入	12	90,000	90,012	210,889	120,877	寄付、前野氏20万円 他
合 計	2,642,440	198,000	2,840,440	2,919,317	78,877	

支出の部

費 目	予算額	補正額	予算現額	支出済額	不 要 額	備 考
総 会 費	400,000	108,000	508,000	508,000	0	同窓会総会費
需 要 費	100,000		100,000	96,600	3,400	会報印刷代
通 信 費	20,000		20,000	13,000	7,000	切手、ハガキ代
慶 弔 費	100,000	20,000	120,000	120,000	0	香典、花輪、記念品代
旅 費	600,000		600,000	546,780	53,220	関西、東京、福岡、宮崎 他
負 担 金	300,000		300,000	266,000	34,000	各地区同窓会の負担金
高 校 振 興 費	920,000		920,000	810,000	110,000	奨学金、中高連絡会、講演
雑 費	140,000	70,000	210,000	202,853	7,147	土産代5.4万、校章旗5万、送料 他
予 備 費	62,440		62,440	0	62,440	
合 計	2,642,440	198,000	2,840,440	2,563,233	277,207	

収入済額 - 支出済額 =

2,919,317 - 2,563,233 = 356,084円 残額は来年度への繰越金

特別基金

平成19年7月31日現在 合計 5,164,976円

内 訳 3,059,601円 鹿児島銀行

2,105,375円 鹿児島相互信用

平成19年度 収支予算書(案)

収入の部

(H19.8.1~H20.7.31)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
入 会 金	200,000	200,000	0	1,000×200 新入生
会 費	398,000	378,000	20,000	2,000×199 卒業生
総 会 収 入	400,000	400,000	0	同窓会総会
繰 越 金	356,084	264,428	91,656	
繰 入 金	1,580,000	1,400,000	180,000	定期取崩分、寄付
雑 収 入	916	12	904	利息
合 計	2,935,000	2,642,440	292,560	

支出の部

費 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
会 議 費	400,000	400,000	0	同窓会総会
需 要 費	100,000	100,000	0	同窓会会報、その他
通 信 費	20,000	20,000	0	ハガキ、切手代
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職者記念品代 他
旅 費	600,000	600,000	0	東京、関西、福岡、宮崎、陵寿会 他
負 担 金	285,000	300,000	△15,000	各地区同窓会へ
高 校 振 興 費	1,270,000	920,000	350,000	講演謝礼、中高連絡会、奨学金、通学バス代
雑 費	140,000	140,000	0	各地への土産代 他
予 備 費	20,000	62,440	△42,440	
合 計	2,935,000	2,642,440	292,560	

[illegible]

